

〈NGO・外務省定期協議会 2022 年度第 2 回 ODA 政策協議会 議題案／質問状記入シート〉

1. **議題案名**:

開発協力大綱改定プロセスについて

2. **議題の背景**:

開発協力大綱改定が9月に発表され、有識者懇談会が行われている。懇談会のあり方については NGO・外務省定期協議会の連携推進委員会 NGO側連携推進委員一同及びODA政策協議会 NGO側コーディネーター一同から10月19日に提案書が提出され、懇談会の透明性・公開性、懇談会の構成（NGO委員が1名のみ）、会合の期間と回数（わずか4回のみ）といった課題について提案がなされている。また、9月27日に行われた NGO・外務省定期協議会の臨時全体会議では、援助を受ける側の人々を含めた市民社会の声を反映する開かれたプロセスになっているか、これまでの開発協力大綱とODAの検証に基づいて改定がなされるのか、といった議論が交わされた。開発協力大綱の改定にあたって、そのプロセスの重要性は繰り返し指摘されている。

3. **議題に関わる問題点（議題に上げたい理由）**:

改定プロセスについて上記のような指摘がある中、外務省からは、有識者懇談会の報告書だけでなく、意見交換会等を行って広く関係者から意見を集約した上で開発協力大綱の改定を行うとの説明がなされている。しかし、意見交換会等のスケジュールや、それがどのように改定に反映されるのかは未だに明らかにされていない。また、「関係者」に援助を受ける側の人々が含まれているのかも明らかにされていない。

4. **外務省への事前質問（論点を詰めるために事前に確認しておきたい事実関係などがあれば）**:

- (1) 「過去のODA評価案件のレビュー（2015～2021年度）」が公表されるとのことだが、その中で現行の開発協力大綱そのものの評価は行われているのか。
- (2) 有識者懇談会終了後、閣議決定までの改定プロセスが具体的にどうなっているのか、市民との意見交換会や公聴会の回数、時期、場所、またパブリックコメント実施のタイミングをどのように考えているのかを伺いたい。

5. **議題の論点（定期協議会の場で主張したいことや、外務省に聞きたいこと）**:

- (1) 現行の開発協力大綱がどのように運用され、その成果や課題は何だったのかについて、市民社会や援助を受ける側の人々が参加する形での評価や検証が実施されるべき。そうした評価を実施し、今回の改定に反映する予定はあるのかを伺いたい。
- (2) 事前質問(2)に対して、外務省との事前打ち合わせでは「前回改定時を参考に」との回答をいただいたが、回数、場所、時期については具体的に示されなかった。前回改定時(2014年)は意見交換会が4回(東京、名古屋、関西、北海道)、公聴会が4回(東京、京都、福岡、仙台)、及び

パブリックコメントが実施されている。意見交換会と公聴会は、今回も地方開催を含めて同じ回数以上が実施されると考えてよいか伺いたい。

(3) 市民との意見交換会(NGO・外務省定期協議会を含む)や公聴会、パブリックコメント等での議論や指摘は、どのように取り扱われ改定案に反映されるのかを伺いたい。

- 氏名:ODA政策協議会NGO側コーディネーター
- 役職:
- 所属団体:

以上